

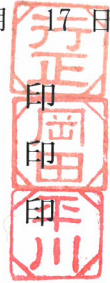
Overexpression of the PPAR α protein in primary Ta/T1 non-muscle-invasive urothelial carcinoma

著者（英）	Shinichi Tanaka, Yasunori Tokuhara, Sho Hosokawa, Hiroyuki Ohsaki, Tatsuya Morinishi, Tamami Yamamoto, Norihiro Teramoto, Eiichiro Hirakawa
学位名	博士（臨床検査学）
学位授与機関	香川県立保健医療大学
学位授与年度	2021
学位授与番号	26201甲第5号
journal or publication title	Molecular and Clinical Oncology
volume	16
number	3
page range	36
year	2021-12-16
URL	http://doi.org/10.50850/00000346

学位論文審査の結果の要旨

令和4年2月17日

主査 行正 信康
副査 岡田 仁
副査 平川 栄一郎



学位申請者	所属領域	保健医療学研究科臨床検査学専攻博士後期課程 病態機能検査学
	学籍番号 氏名	219DS01 田中 慎一
論文題目	Overexpression of the peroxisome proliferator-activated receptor gamma (PPAR- γ) protein in primary Ta/T1 non-muscle-invasive urothelial carcinoma	
学位論文の審査結果		合格
〔論文審査結果の要旨〕 本研究は、研究開始時に策定された研究計画書に則り、以下の研究が実行・実施され、中間報告会、学位論文の提出、および、最終審査会を経て審査結果は合格とした。 〈報告内容〉 尿路上皮組織におけるPPAR- γ 発現を解明し、尿路上皮癌検出マーカーとしてPPAR- γ が有用であるかを明らかにするための研究結果について示された。 〈評価〉 本研究は、尿路上皮組織におけるPPAR- γ 発現を、免疫組織化学的手法を用いて癌診断マーカーとして応用可能かを判断した研究である。PPAR- γ の核内過剰発現は正常尿路上皮組織に比し、非筋層浸潤性尿路上皮癌において有意に高頻度であった。尿路上皮癌の増殖様式別に比較すると、PPAR- γ 陽性頻度は、乳頭状尿路上皮癌では平坦型尿路上皮癌より有意に高いことを確認した。また、PPAR- γ 免疫組織化学染色の非筋層浸潤性尿路上皮癌検出感度は、他のマーカーのp53, Ki-67 よりも高感度であることを明らかにした。PPAR- γ のみが、非筋層浸潤性低異型度の尿路上皮癌と正常組織を網羅的に鑑別する新たな尿路上皮癌バイオマーカーとして有用であることを示した。これらの結果はこれまでに報告がない新規性のある報告として、病理・細胞診診断の向上に寄与するものである。本研究結果は、国際学術誌のMolecular and Clinical Oncology に投稿、受理、掲載された (16: 36, 2022)。最終報告会における発表内容および質疑応答等も適切に対応され、本学大学院保健医療学研究科博士後期課程臨床検査学専攻における学位 (博士・臨床検査学) の授与に値するものと判断した。		